

## 特別勘定に関する指標等

### 特別勘定資産残高の状況

(単位:百万円)

区分	2020年度末	2021年度末
個人変額保険	51,252	52,028
変額個人年金保険	171,446	122,550
団体年金保険	496,462	532,516
合計	719,161	707,095

### 個人変額保険および変額個人年金保険特別勘定資産の運用の経過

国内債券市場では、長期金利は、新型コロナウイルスの感染動向に振らされつつも年末にかけて一定のレンジ内で推移した後、年明け以降は、金融引き締めペースの加速が意識され上昇した米長期金利に追隨する形で水準を切り上げ、10年国債利回りは前年度末対比0.090%高い0.210%で引けました。

国内株式市場は、緊急事態宣言の再発令等により8月下旬にかけて軟調に推移した後、ワクチン接種の進展や新政権による経済対策への期待等から9月中旬にかけて急反発しました。その後は、中国経済の先行き不透明感やオミクロン株の感染拡大への懸念等から上値の重い展開が続きました。年明け以降は、米国での金融引き締め加速観測やウクライナ情勢の緊迫化等を受け下落基調で推移し、年度末にかけて反発しましたが、日経平均は前年度末対比1,357円低い27,821円で引けました。

米国債券市場では、長期金利はFRBによる緩和的な金融政策や世界的な新型コロナウイルスの感染拡大等を背景に9月下旬にかけて低下基調で推移した後、9月FOMCでの量的緩和縮小の年内開始示唆等を受け上昇しました。その後は年末にかけて一進一退で推移しましたが、年明け以降はウクライナ情勢の緊迫化に伴うインフレ加速懸念やFRBによる利上げペース加速観測等を受けて上昇基調を強め、米国10年債利回りは前年度末対比0.599%高い2.341%で引けました。

米国株式市場は、新型コロナウイルスの感染拡大や中国の債務問題への懸念等から下落する局面を経つつも、底堅い実体経済や良好な企業決算等が支えし、年末にかけて上昇基調で推移しました。年明け以降はFRBによる金融引き締め加速観測やウクライナ情勢の緊迫化等から3月上旬にかけて軟調となりましたが、その後はロシアとウクライナの停戦協議の進展への期待等から年度末にかけて反発し、NYダウは前年度末対比1,697ドル高い34,678ドルで引けました。

為替については、FRBによる金融引き締めペース加速観測等に伴う内外金利差の急拡大を背景に、年明け以降急速に円安ドル高が進行し、対ドルでは前年度末対比11円68銭安の122円39銭で終えました。また、年明け以降ECBによる早期利上げ観測が高まったこと等から、対ユーロでは前年度末対比6円90銭円安の136円70銭で終えました。

こうした環境のなか、個人変額保険に関しましては、内外資産への分散投資により安定的な収益の確保に努めました。2021年度につきましては、株価が上昇基調となった局面では株式の占率を引き上げる一方、過熱気味と判断した局面では株式の占率を引き下げる等、市場環境の変化に合わせた機動的な配分変更を行ないました。

変額個人年金保険に関しましては、商品ごとに設定された投資信託への投資を継続しました。なお、投資信託の組み入れ比率は期間を通じて概ね高位を維持しました。

### 個人変額保険(特別勘定)の状況

#### 保有契約高

(単位:件、百万円)

区分	2020年度末		2021年度末	
	件数	金額	件数	金額
変額保険(有期型)	-	-	-	-
変額保険(終身型)	48,623	446,925	47,405	433,332
合計	48,623	446,925	47,405	433,332

(注) 保有契約高には、定期保険特約部分を含んでいます

## 資産の内訳

(単位:百万円、%)

区 分	2020年度末		2021年度末	
	金 額	占 率	金 額	占 率
現預金・コールローン	946	1.8	374	0.7
有価証券	47,454	92.6	45,218	86.9
公社債	12,950	25.3	11,620	22.3
株式	15,571	30.4	14,221	27.3
外国証券	18,932	36.9	19,376	37.2
公社債	5,086	9.9	5,283	10.2
株式等	13,846	27.0	14,093	27.1
その他の証券	-	-	-	-
貸付金	-	-	-	-
その他	2,850	5.6	6,435	12.4
貸倒引当金	-	-	-	-
合 計	51,252	100.0	52,028	100.0

## 運用収支状況

(単位:百万円)

区 分	2020年度	2021年度
利息及び配当金等収入	782	785
有価証券売却益	3,839	4,699
有価証券償還益	-	-
有価証券評価益	12,502	7,996
為替差益	30	29
金融派生商品収益	204	180
その他の収益	1	1
有価証券売却損	2,705	916
有価証券償還損	-	4
有価証券評価損	3,538	9,043
為替差損	23	13
金融派生商品費用	504	238
その他の費用	1	0
収支差額	10,588	3,475

## 有価証券の時価情報

### 売買目的有価証券の評価損益

(単位:百万円)

区 分	2020年度末		2021年度末	
	貸借対照表 計上額	当期の損益に 含まれた評価損益	貸借対照表 計上額	当期の損益に 含まれた評価損益
売買目的有価証券	47,454	8,964	45,218	△ 1,046

## 金銭の信託の時価情報

2020年度末、2021年度末とも保有していません。

## デリバティブ取引の時価情報

### (1) 差損益の内訳(ヘッジ会計適用分・非適用分の内訳)

(単位:百万円)

区 分	2020年度末					
	金利関連	通貨関連	株式関連	債券関連	その他	合 計
ヘッジ会計適用分	-	-	-	-	-	-
ヘッジ会計非適用分	-	△ 4	△ 12	-	-	△ 16
合 計	-	△ 4	△ 12	-	-	△ 16

  

区 分	2021年度末					
	金利関連	通貨関連	株式関連	債券関連	その他	合 計
ヘッジ会計適用分	-	-	-	-	-	-
ヘッジ会計非適用分	-	△ 1	-	-	-	△ 1
合 計	-	△ 1	-	-	-	△ 1

(注)ヘッジ会計非適用分の差損益は、損益計算書に計上されています

### (2)ヘッジ会計が適用されていないもの

#### ◆金利関連

2020年度末、2021年度末とも保有していません。

#### ◆通貨関連

(単位:百万円)

区 分	2020年度末				2021年度末				
	契約額等		時 価	差損益	契約額等		時 価	差損益	
		うち1年超				うち1年超			
店 頭	為替予約								
	売建	454	-	△ 4	△ 4	316	-	△ 20	△ 20
	米ドル	349	-	△ 5	△ 5	243	-	△ 15	△ 15
	ユーロ	105	-	0	0	72	-	△ 5	△ 5
	買建	-	-	-	-	317	-	19	19
	米ドル	-	-	-	-	244	-	14	14
	ユーロ	-	-	-	-	72	-	4	4
合 計				△ 4				△ 1	

(注)為替予約の差損益は、時価を記載しています

#### ◆株式関連

(単位:百万円)

区 分	2020年度末				2021年度末			
	契約額等		時 価	差損益	契約額等		時 価	差損益
		うち1年超				うち1年超		
取 引 所	株価指数先物							
	売建	321	-	△10	△10	-	-	-
	外国株価指数先物							
売建	539	-	△ 1	△ 1	-	-	-	
合 計				△ 12				-

(注)株価指数先物および外国株価指数先物の差損益は、時価を記載しています

#### ◆債券関連

2020年度末、2021年度末とも保有していません。

### (3)ヘッジ会計が適用されているもの

2020年度末、2021年度末とも保有していません。

## 変額個人年金保険(特別勘定)の状況

### 保有契約高

(単位:件、百万円)

区分	2020年度末		2021年度末	
	件数	金額	件数	金額
変額個人年金保険	68,358	209,265	59,966	164,056

(注) 保有契約高には、年金開始後契約等の一般勘定部分を含んでいます

### 資産の内訳

(単位:百万円、%)

区分	2020年度末		2021年度末	
	金額	占率	金額	占率
現預金・コールローン	702	0.4	474	0.4
有価証券	168,035	98.0	118,902	97.0
公社債	-	-	-	-
株式	-	-	-	-
外国証券	-	-	-	-
公社債	-	-	-	-
株式等	-	-	-	-
その他の証券	168,035	98.0	118,902	97.0
貸付金	-	-	-	-
その他	2,709	1.6	3,174	2.6
貸倒引当金	-	-	-	-
合計	171,446	100.0	122,550	100.0

### 運用収支状況

(単位:百万円)

区分	2020年度	2021年度
利息及び配当金等収入	16,347	7,362
有価証券売却益	0	0
有価証券償還益	-	-
有価証券評価益	30,667	16,699
為替差益	-	-
金融派生商品収益	-	-
その他の収益	-	-
有価証券売却損	594	498
有価証券償還損	-	0
有価証券評価損	36,950	28,270
為替差損	-	-
金融派生商品費用	-	-
その他の費用	-	-
収支差額	9,471	△4,705

### 有価証券の時価情報

#### 売買目的有価証券の評価損益

(単位:百万円)

区分	2020年度末		2021年度末	
	貸借対照表計上額	当期の損益に含まれた評価損益	貸借対照表計上額	当期の損益に含まれた評価損益
売買目的有価証券	168,035	△ 6,282	118,902	△ 11,570

### 金銭の信託の時価情報

2020年度末、2021年度末とも保有していません。

### デリバティブ取引の時価情報

2020年度末、2021年度末とも保有していません。

## 団体年金保険(特別勘定)の状況

### 団体年金保険特別勘定特約の受託状況

(単位:件、百万円)

	2020年度末		2021年度末	
	団体数	時価残高	団体数	時価残高
特別勘定(第1)特約	881	488,580	891	489,186
総合口	353	165,470	346	172,480
投資対象別各口	263	128,887	254	130,512
専用投資対象別各口	331	194,222	357	186,193
合計	881	488,580	891	489,186

(注) 特別勘定(第1)特約は、複数の団体年金のご契約資金を合同運用しています

## 特別勘定(第1)特約(総合口)の状況

### (1) 2021年度の運用状況

年度を通じて、年度計画に対し国内債券の配分を低めにしました。通期の時間加重収益率は、外国株式の上昇が寄与し、+6.56%となりました。

(単位:%)

	2021年度 計画	資産配分実績				
		2021年3月末	6月末	9月末	12月末	2022年3月末
国内債券	30.0	28.3	28.0	27.4	26.6	28.9
国内株式	30.0	30.4	29.9	30.4	31.1	29.8
外国債券	10.0	9.7	9.6	9.8	9.7	9.0
外国株式	28.0	28.7	28.5	28.0	29.6	29.5
短期資金等	2.0	2.9	4.0	4.3	3.0	2.8
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(注) 資産配分実績は、時価ベースの数値を記載しています

### (2) 資産別時価残高

(単位:百万円、%)

	2020年度末		2021年度末	
	時価残高	構成比	時価残高	構成比
国内債券	46,907	28.3	49,774	28.9
国内株式	50,310	30.4	51,426	29.8
外国債券	16,079	9.7	15,597	9.0
外国株式	47,454	28.7	50,851	29.5
短期資金等	4,718	2.9	4,831	2.8
全体	165,470	100.0	172,480	100.0

### (3) 運用実績

(単位:%)

	2020年度	2021年度
時間加重収益率	26.24	6.56

## 特別勘定（第1）特約（投資対象別各口）の状況

### (1) 2021年度の運用状況

ファンド名	運用状況
円貨建公社債口	ファンダメンタルズ分析に基づき、デュレーション戦略、イールドカーブ戦略、セクターアロケーション戦略を決定するアクティブ運用を行ないました。デュレーションについては、低金利環境が継続すると予測し、金利水準や投資家動向を注視しながら適宜調整しました。種別構成については事業債多めの配分を維持しました。
円貨建株式口	ボトムアップ・アプローチに基づく定性分析と定量分析の融合によるアクティブ運用を行ないました。定性部分では、収益・財務内容等、企業のファンダメンタルズ情報に基づき、日米を中心とした景気動向や金融政策などの市場環境変化も加味して、適宜銘柄入替えを実施しました。定量部分は安定化を企図し、TOPIX連動型ETFでの運用を行ないました。
円貨建株式口B	多種多様なファクターをバランス良く取り入れた定量モデルに基づくエンハンスインデックス運用を行ないました。業種リスクを抑制するなどリスクコントロールを重視した運用を行ないました。
外貨建公社債口	ファンダメンタルズ分析に基づき、通貨戦略、デュレーション戦略、イールドカーブ戦略を決定するアクティブ運用を行ないました。通貨配分については、米欧金融政策、政治動向を注視しつつ調整しました。デュレーションについては、金利水準および期待インフレや国債の需給動向等を勘案し調整しました。
外貨建株式口	ボトムアップ・アプローチに基づく定性分析と定量分析の融合によるアクティブ運用を行ないました。先進国では、業種リスクを抑え、銘柄選択では独自の成長要因や収益改善などに着目し銘柄の組み入れを実施しました。
外貨建株式口B	多種多様なファクターをバランス良く取り入れた定量モデルに基づくエンハンスインデックス運用を行ないました。地域・業種リスクを抑制するなどリスクコントロールを重視した運用を行ないました。
短期資金口	流動性と安全性に留意した運用を行ないました。

### (2) 時価残高と運用実績

(単位:百万円、%)

	2020年度		2021年度	
	年度末時価残高	時間加重収益率	年度末時価残高	時間加重収益率
円貨建公社債口	84,816	0.37	88,448	△ 0.60
円貨建株式口	6,325	38.28	5,892	2.29
円貨建株式口B	16,827	39.92	9,724	1.74
外貨建公社債口	8,010	5.33	8,143	2.10
外貨建株式口	4,999	60.32	7,202	21.77
外貨建株式口B	4,198	57.08	4,529	23.43
短期資金口	3,709	0.00	6,572	0.00
合計	128,887		130,512	